

# 提 言 書

## 子どもの健やかな育ちへの大人のかかわり

～人とのつながり、  
コミュニケーションのできるまちづくりをめざして～

### 提 言 項 目

(テーマに対する方向性)

- 1 地域の子どもとして育てる
- 2 子どもネット環境を改善する
- 3 社会体育のあり方を再検討する
- 4 子ども自己肯定感を高める

平成27年9月30日  
松本市社会教育委員会議

# もくじ

はじめに	・・・	1
1 現状と課題を整理する	・・・	2
(1) 子どもの地域活動等へのかかわり		
(2) 子どものIT・ゲームの環境		
(3) 小中学生の体力づくりの環境		
(4) 子どもの自己肯定感		
2 提言項目：テーマに対する方向性を示す	・・・	7
(1) 地域の子どもとして育てる		
(2) 子どものネット環境を改善する		
(3) 社会体育のあり方を再検討する		
(4) 子どもの自己肯定感を高める		
3 実践例から具体的な方策を探る	・・・	8
(1) 地域の子どもとして育てる		
ア 地域の人とのコミュニケーションを図る		
イ 地域で子どもたちの主体性を育てる		
ウ 日常生活で子どもの役割を持たせる		
(2) 子どものネット環境を改善する		
(3) 誰もが参加し、楽しめるスポーツを行う機会を増やす		
(4) 子どもたちが、自分や他者の存在価値を認められるようになるために		
おわりに	・・・	16
*****		
資料編	・・・	17
I 提言に向けた会議等の経過		
II 社会教育関係団体意見交換会 実施概要		
III グループごとの調査・研究内容（平成27年1月～3月）		
■ 参考資料一覧		
■ 社会教育委員名簿		

## はじめに

社会教育という漠然とした活動の中で、委員として模索しながら2年間取り組んできました。

「社会教育委員は何をすればいいのだろう」と自問しながら、まずは松本市の様々な活動や文化施設を知ることから始めました。また、社会教育関係団体による「地域で子どもを育てる」をテーマとして意見交換会を行い、子どもを取り巻く現状について関係者と考えてきました。

その中から4つの課題にしぼり、統計調査やアンケート実施などから松本市の現状把握と分析を行い、それらの課題解決に向けての方策を検討してきました。そこで、「子どもの健全やかな育ちへの大人のかかわり ～人とのつながり、コミュニケーションのできるまちづくりをめざして～」をテーマとして提言をまとめました。

雄大な山々に囲まれ、豊かな自然環境や、歴史と文化・伝統に恵まれた松本市で、年齢に関係なく、大人も子どもも共に学び、語り、活動できる地域づくりができれば理想的です。また、その活動を支える人々の人間関係や顔と顔を合わせたコミュニケーションが、地域の土台を作っていくと考えました。この提言が、子どもたち自らの存在価値を認められる未来につながり、社会教育活動の推進に少しでも役に立つことがあれば幸いです。

## 1 現状と課題を整理する

### (1) 子どもの地域活動等へのかかわりについて

#### ア 社会教育委員会の取組みから把握する現状

社会教育委員会議では、社会教育に関する団体との意見交換会（平成26年12月）や地区子ども会育成会へのアンケート調査（平成27年2月）などを通して、日頃の地域での子どもたちの様子などについて把握しました。主な内容は以下のとおりです。

地域での様々な活動（あいさつ運動や地域の育成会事業など）を通して、「子どもから挨拶してくれるようになってきた」、「大人との良い関係が築けてきた」といった意見が出され、それぞれの地域での活動が実を結んでいる様子を伺うことができました。一方で、「地域と学校の連携事業などは活発に行われているが、子どもが主体となった事業が少ない」、「塾やクラブチームの活動に忙しいなどにより、地域の公園など外で遊ぶ子どもの姿があまり見られない」などといった意見が出され、日頃子どもたちが生き生きと地域の活動に関わったり、地域で遊ぶことが難しい状況であることも分かってきました。

なお、ほかには、以下のような意見が出されました。

- ・「鍵っ子」が多く、仲間づくりの機会が少ない
- ・家庭内での手伝いの経験が少ない
- ・大人は仕事に追われ、子どもと一緒に行事に参加したり、体験する機会が少ない
- ・コミュニケーションが苦手なのは、子どもばかりでなく大人にも多くなってきたと感じる

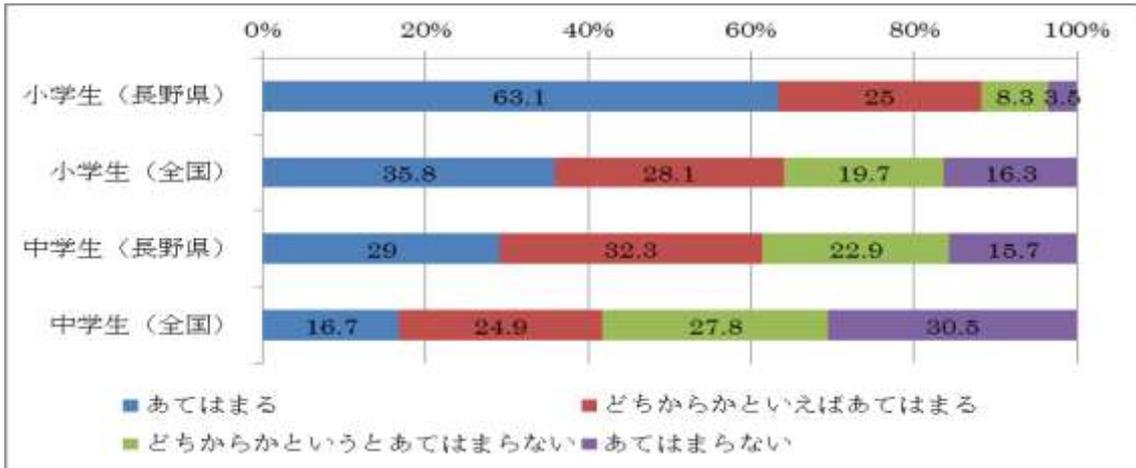
#### イ データから把握する現状と課題（グラフ1～3参照）

上記アで把握された状況は、各種調査からも伺うことができます。

平成25年度全国学力・学習状況調査（グラフ1、グラフ2）では、長野県の子どもたちは「地域の行事に参加している」割合が高い（小学生は85%）一方で、「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりする」割合が、全国平均で見ても低くなっており、地域での子どもと大人とのかかわりが比較的薄いことが伺えます。

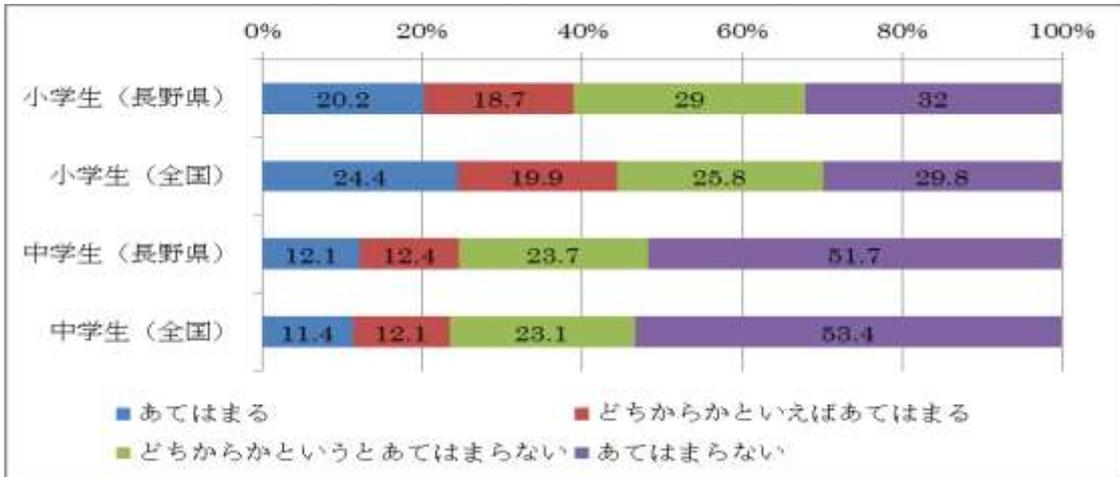
また、平成25年度の松本市のこども対象のアンケート（グラフ3）からは、「今打ち込んでいること。やりがいに感じていること」として、習い事（小学生）やクラブ活動（中高生）などが多い傾向にあります。一方で、「地域の子ども会活動」、「ボランティア活動」に打ち込んでいる等の割合が比較的少数であることから、子どもたちが地域の活動に主体的に関わる機会が少ないことなどが伺えます。

グラフ1:今住んでいる地域の行事に参加していますか？



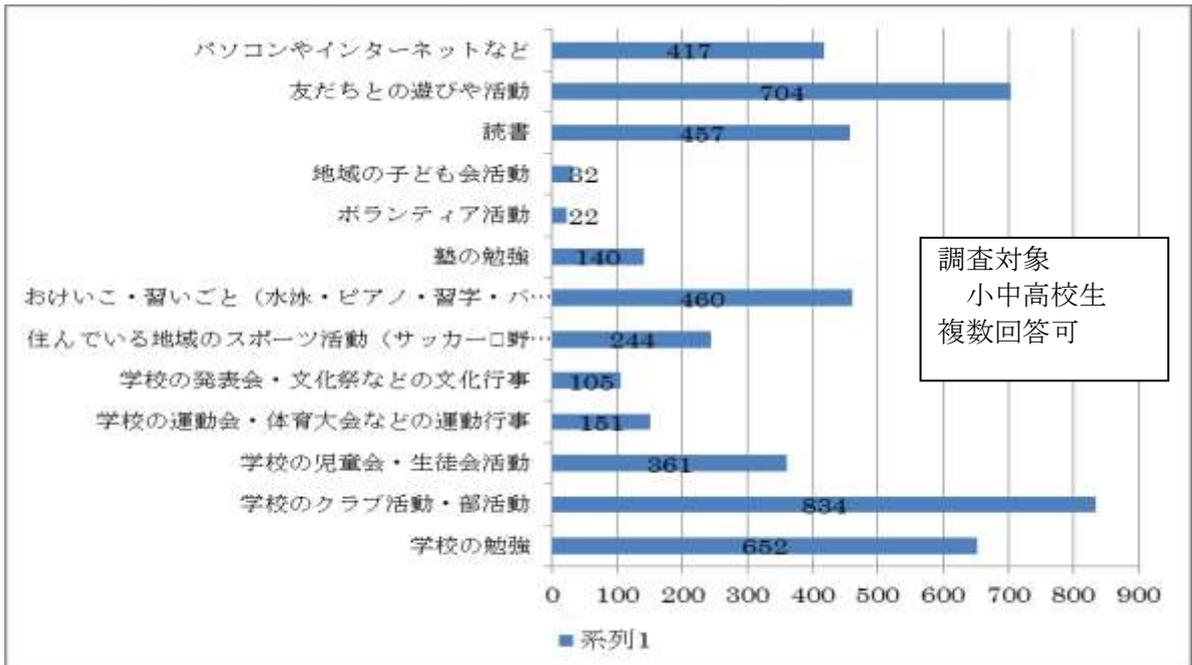
出典「平成25年度全国学力・学習状況調査」

グラフ2:地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることができる



出典「平成25年度全国学力・学習状況調査」

グラフ3:あなたが「今打ち込んでいること・やりがいを感じていること」は何ですか？



出典「平成25年度松本市子ども対象のアンケート」

## (2) 子どものIT・ゲームの環境について（グラフ4、5）

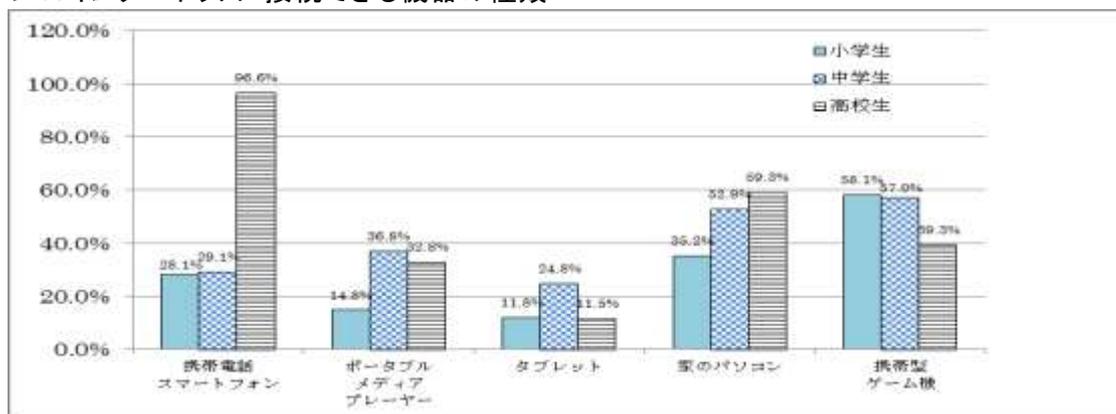
インターネットの普及は、子どもの世界にも広がり、日常生活に不可欠なものになりつつありますが、インターネットを通じて子どもが犯罪やいじめに巻き込まれる事件等も発生してきています。

そこで、社会教育委員会では、育成会へのアンケートなどを通して、地域における子どもの状況について意見交換しました。主に出された意見は、「休日等に外遊びをしないで、家でゲームやインターネットをしている子どもが増えている」、「公園に集まって、ゲームをしている」などです。

また、「インターネットについてのアンケート調査（平成26年度長野県）」からは、子どもを取り巻くインターネット環境について以下のことがわかってきました。「小中学生は、携帯電話よりもゲーム機からインターネットに接続する機会が多い」、「2時間以上インターネットに接続している割合は、中学生で2割以上、高校生で5割以上」といったことがグラフ4から伺えます。こうした現状にもかかわらず、保護者の回答では「フィルタリングの必要を感じない」などといったものが比較的多く、保護者である大人たちにフィルタリングへの意識が低いことも伺えます（グラフ5）。

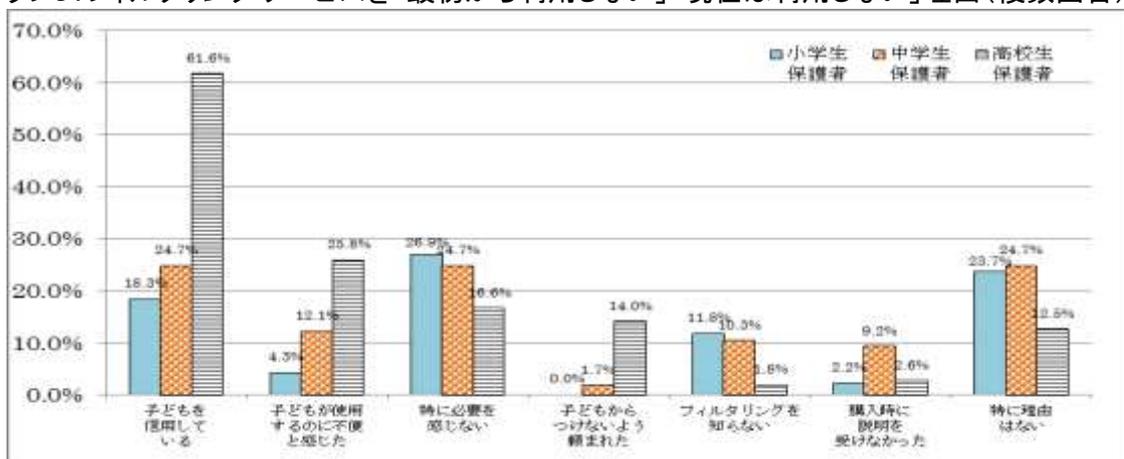
\*フィルタリング：有害サイトアクセス制限。インターネット上のウェブページなどを一定の基準で評価判別し、選択的に排除する機能（出典：ウィキペディア）

グラフ4: インターネットに接続できる機器の種類



出典「インターネットについてのアンケート（平成26年度 長野県）」

グラフ5: フィルタリングサービスを「最初から利用しない」「現在は利用しない」理由（複数回答）



出典「インターネットについてのアンケート（平成26年度 長野県）」

### (3) 小中学生の体力づくりの環境について（表1）

社会教育委員会議では、子どもたちの体力づくりの環境について意見交換などを通して現状や課題などを把握してきました。

平成26年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査（表1）によると、長野県の小中学生、特に中学2年生の女子の体力不足が指摘されています。

一方で、競技スポーツが盛んではあるが、スポーツ少年団の活動などからは、「子どもが忙しく、地域行事との（日程）調整がうまくいかない」、「大人も送迎等で忙しく、また金銭的な負担も大きくなっている」などの現状報告等がありました。

そこで、より多くの子どもたちの体力づくりの環境を整える必要があると思われませんが、より参加しやすいスポーツとしてニュースポーツなどの種目は増えてきているものの、その受け皿となる組織体制が未成熟であったり、地区体協などが子ども向けの社会体育の事業を計画するものの、会場の確保に苦勞するなどといった課題が出されました。

表1:長野県と全国の体力合計点の推移(平成23年度は震災により調査中止)

		20年度	21年度	22年度	24年度		25年度		26年度		全国との差
		(悉皆)	(悉皆)	(抽出)	(抽出)	順位	(悉皆)	順位	(悉皆)	順位	
小5男子	本県	54.53	54.21	54.15	53.65	29	54.07	19	53.84	22	-0.07
	全国	53.18	54.19	54.36	54.07		53.87		53.91		
小5女子	本県	54.80	54.42	54.04	55.11	23	54.35	30	54.66	30	-0.35
	全国	54.84	54.59	54.89	54.87		54.70		55.01		
中2男子	本県	41.69	41.04	41.68	42.18	22	41.87	24	42.11	20	0.48
	全国	41.50	41.36	41.71	42.11		41.78		41.63		
中2女子	本県	47.14	46.28	46.34	46.23	44	47.01	39	47.38	41	-1.17
	全国	48.38	47.97	48.14	48.62		48.42		48.55		
総合	本県	198.16	195.95	196.21	197.17	31	197.30	29	197.99	27	-1.11
	全国	197.90	198.08	199.10	199.67		198.77		199.10		
総合の差引		+0.26	-2.13	-2.89	-2.50		-1.47		-1.11		

(出典：平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査)

### (4) 子どもの自己肯定感について（グラフ6）

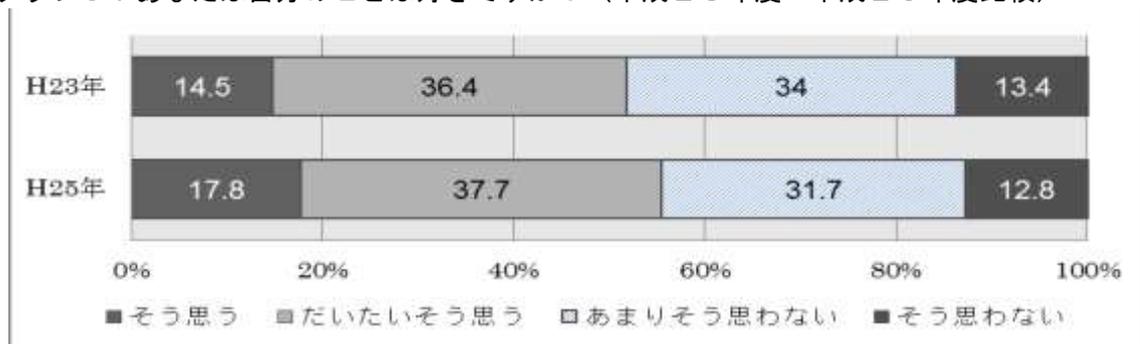
これまで(1)から(3)で見てきたとおり、社会教育委員会議では子どもの地域活動等へのかわりやIT環境、そして社会体育のあり方などの現状や課題を把握してきましたが、子どもたちが生きいきと安心して日常生活や地域での活動に関われるようにするためには、子どもたち自身の心の健康づくりも欠かせないといった意見が出され、以下のとおり子どもたちの自己肯定感に焦点を当てて、その現状把握と課題検討をしました。

平成25年度に実施された「松本市子どもアンケート」（グラフ6）では、「自分のことが好きですか」といった問いに対して、「そう思う」（17.8%）、「まあそう思う」（37.

7%)の回答が55.5%となっており、松本市の子どもたちの自己肯定感が決して高くなく、さらに年齢が上がるにつれ、自分のことが好きな子どもの割合が低下傾向にあることもわかりました。

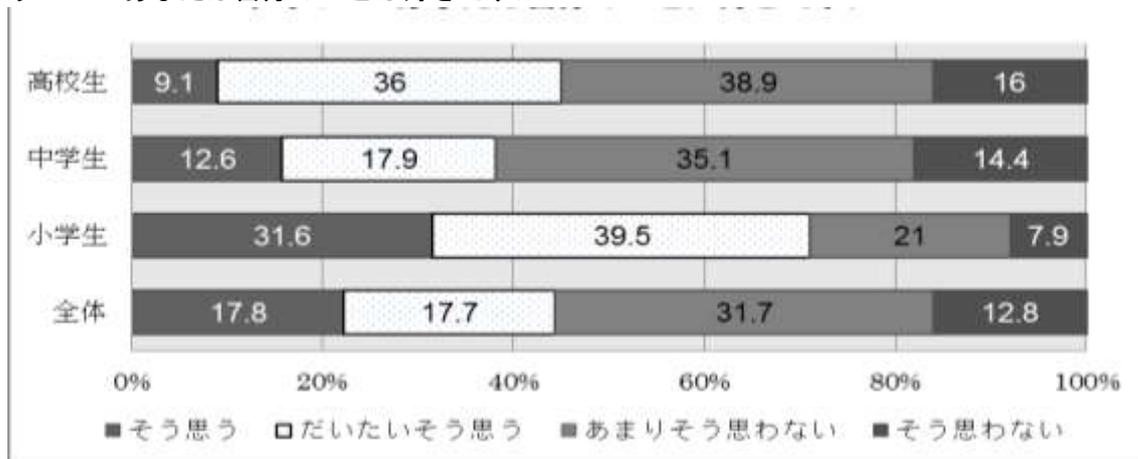
また、社会教育委員会議では、このデータなどをもとに意見交換し、「反省する場面が多いわりには、心温まる行動が評価されたり、褒められる経験が少ないのではないか」、「大人自身も、褒められる経験が少ないため、褒めることに慣れていない人が多いのではないか」といった意見が出されました。

グラフ6：あなたは自分のことは好きですか？（平成23年度・平成25年度比較）



出典：松本市子どもアンケート（平成25年度）

グラフ7：あなたは自分のことは好きですか？



出典：松本市子どもアンケート（平成25年度）

## 2 提言項目：テーマに対する方向性

### (1) 地域の子どもとして育てる

地域の子どもとして育てていくため、子どもと大人とのコミュニケーションの場を作り、子どもたちが主体的に関わる行事を増やす。大人はサポートに徹する。

### (2) 子どもネット環境を改善する

IT やゲームからの犯罪を防ぎ、依存傾向を予防するためには、大人が危機感を持つべきである。大人の学ぶ機会を多く設定する必要がある。

### (3) 社会体育のあり方を再検討する

ア 指導者は子どもの目線に立って考え、子どもたちと共に楽しさや喜びが味わえるよう子どもたちと接する。

イ スポーツの関係団体と連携しながら、指導者の人材育成に取り組む。

ウ スポーツ教室の実施にあたり、子どもの思いはもっと遊びたい、もっとスポーツしたいと思っているため、地区の施設の安定した使用が不可欠である。

エ 保護者への負担は極力小さくする。

### (4) 子ども自己肯定感を高める

大人と子どもが、お互いに良さを発見するために、一緒に体験・交流する場をつくったり、日常的に褒め合う機会を増やす。その中で、子どもが大人から頼りにされていることを実感できるような地域社会に変えていく。また、小学生だけでなく、中学生、高校生の社会参画を促していく。

### 3 実践例から具体的な方策を探る

#### (1) 地域の子どもとして育てる

子ども会育成会へ行った各地区の事業のアンケートからは、各地区様々な事業が行われていることが分かりました。このことは、前出の平成25年度全国学力・学習状況調査で、長野県は、地域の行事に参加している子どもの割合が多いことから伺うことができます。

一方で、同調査では、地域の人から教えてもらったり、一緒に遊んだりすることができる割合が低く、さらに地域の子ども会活動やボランティア活動に打ち込んでいる・やりがいを見出している子どもが少ない（平成25年度松本市子ども対象のアンケート）ことから、活動の割に子どもにとって地域の人とのかかわりの度合いや地域活動への関心が決して高くないことが伺うことができます。

そこで、地域で子どもたちが生きいきと活動でき、子どもが主体性を見出していくための事例を紹介します。

#### ア 地域の人とのコミュニケーションを図る

松本市内には、学校サポート事業やコミュニティスクール事業などを通して、子どもと地域の大人とのコミュニケーションを図っている事例がたくさんあります。

その中で、寿地区の「寿こども見守り隊」事業は、身近な地域であいさつ運動を10年近く継続し、子どもと日常的なかかわりを持つことで、子どもと地域の大人が心を通わせることにつながっていることを伺うことができる事例です。また、庄内地区の事例からは、地域の様々な大人が学校に出かけ、子どもたちとの交流を深めることで、子どもはもとより、地域住民である大人にとっても生きがいつくりの場となるなど、地域と学校の連携がまちづくりを活気づける様子が伺うことができます。

#### ＝ 寿こども見守り隊（心への応援）＝

子どもの頃友だちと勉強のこと、友だちのこと、家でのことなど、のんびりと道草しながら話し合った通学路は楽しく、心の支えになる大切な場所でありました。多くを学んだ時間でした。

今、幅50センチほどの路側帯を一行で、通勤で急ぐ車をよけながら歩いていく子どもたちにそんなゆとりはないように思えます。少しでも潤いをあげたいと、4年前から通学路わき20mくらいに花壇を作りました。朝顔と自然に生えたガガイモ、カラスウリの棚を作って育てたところ、きれいに花が咲き、夏から秋にかけて実がなりました。かじったり、つぶしたりしてかかわる子が結構います。その前で朝7時から7時30分まで70人から80人の子どもと「おはよう」とあいさつしながら、ジャンケンポンをやっています。みんな笑顔で返してくれ、うつむき加減だった子も相手をしてくれるようになりました。通りがかりのおばさん達ともジャンケンポンして顔見知りになります。互いの笑顔で今日も明るい一日になります。

平成26年11月に6年1組から、感謝の気持ちを込めて見守り隊の人たちと交流会をしたいと招待状をもらい大勢参加しました。学年末2月に2回目の交流会に招待され

昔遊びとして花札、トランプ、お手玉、羽つき、けん玉、ダルマ落とし、カルタをグループに分かれて全種目こなし、1時間の予定が楽しさで時を忘れ1時間30があつという間にすぎました。この和やかさは、登下校時に通学路の見守りで顔見知りになっているからだと思います。

寿見守り隊は、平成17年に結成し隊員数は毎年60～70人くらいで現在も続いています。10年近くも通学路に立っていたとはびっくりです。学校応援というと直接授業の応援だけを考えがちだが、それだけではなく授業外の応援もあるのでは。子どもが授業を受けるときは、やる気と明るく楽しい心の状態であることが大切です。その心を育て支えられるのは家庭での親子の会話であり、地域の行事などでの大人の皆さんから認められることだと思います。できるだけ多くの機会に子どもとかかわり、心を通わせることが応援につながると思います。

### ＝ スクールサポート（庄内地区） ＝

庄内地区では地域の人々が小学校へ行き、読み聞かせや英語や書道の授業をしたり、七夕人形を一緒に作ったり、囲碁を教えたり、また一本ねぎや米作りの指導など色々な学校支援を行っております。

地域のお年寄りが通学時の見守りをしたり、PTAの方々のあいさつ運動など、学校支援をすることで地域住民の生きがいの場作りにもなっております。

子どもとかかわりを持つことで学校以外の場所で行き会っても、自然と笑顔になり言葉を交わしてくれます。

子どもたちは地域の人に見守られているということを感じ、また地域の人からは子どもからエネルギーをもらい、活気ある町づくりにもつながるような気がします。

核家族世帯で兄弟も少なく、かかわりを持つ人間関係も限られている現在、広い年齢層の地域の人とふれあうことで、感情も豊かになり、また学校の先生以外の人からほめてもらうことにより、自己肯定感も高まると思います。

学校と地域が手を取り合い、一緒に子どもたちを育てることにより、子どもたちの社会的自立、また地域の活性化にもつながることと思います。



## イ 子どもたちの主体性を育てる

子どもたちが地域の中で、自らの役割を見出していくことは、子どもたちの主体性を育てるとともに、自分の地域への愛着も育てます。

そこで、庄内地区の子ども会や新村地区のものぐさちびっこ隊の活動を紹介します。いずれも地域で子どもが主体的になって活動する様子が読み取れるほか、子どもたちが多世代の人たちとのコミュニケーションを通じて地域の子どもの成長する姿が伺えます。

## = やまびこ子ども会（庄内地区） =

毎年7月最後の土曜日に庄内地区では、やまびこ子どもまつりがおこなわれます。地区には3校の小学校があり、15町会の子ども会役員が集まり、やまびこ子ども会を構成しております。

4月にやまびこ子ども会を開き役員を決めます。育成会から毎年やっている子どもまつりを持ち掛け、やまびこ子ども会の役員が司会進行しながら、子どもたちが今年のテーマを決めたり、やりたいイベントの意見を出し合い、子どもたち自身で企画運営します。

当日は町会の青年会やPTAの方々にも手伝って頂き、幼児からお年寄りまで楽しんでいただいております。

今年はおばけ屋敷をやりたいということで、信濃むつみ高校の先生や生徒と小学生と一緒に準備をし、ダンボールでお墓や鳥居や井戸を作ったり、お面を作ったり、仮装の準備をしておばけ屋敷を作り上げていきました。当日は開成中学の生徒にも手伝ってもらいました。

通学する学校が違っていてもすぐ友達になり、協力し合い、また中学生や高校生ともお互い親しみを持ち、兄弟のように楽しんでおりました。

子どもたちは色々な行事を体験したり、幅広い年代の人とコミュニケーションを取ることによって成長し、また地域での思い出がいつまでも心に残り、大人になってふるさとの良さを再認識してくれることと思います。



## = “ものぐさちびっこ隊”（新村地区） =

新村地区の子ども会育成会が行っている“ものぐさちびっこ隊 球技大会”を紹介をします。

この、“ものぐさちびっこ隊 球技大会”は、40年以上行われている伝統ある大会です。小学生が企画し、当日の運営もしています。大会に向けて児童会の地区長が2～3回の会議を開催して、開閉会式の運営、競技種目の決定などの詳細を決めています。

大会当日は、地区の児童の95%以上の参加があり、カローリング、ドッジボール、バスケットボールなどを行っています。

この大会を通して、新村地区の子どもたちは、より深い交流と信頼関係が生まれ、また、自分たちの企画運営により、責任感と自主性が生まれ育っています。



## ウ 日常生活で子どもの役割を持たせる

日常生活の中にごく当たり前の仕事の手伝いが組み込まれていて、それが自然に日常的な生活習慣として身につけていた時代と異なり、子どもの手伝いが減ってきたように思われ、手伝いの楽しさ、自分も家庭の役に立っているという達成感や自己肯定感が感じられなくなってきました。

そこで、家庭内でもゴミ出し、掃除などの家事を手伝わせ、地域社会もまた、高齢者世帯の雪かきなどのお手伝い、公共の場所の掃除などを小中学生に担ってもらうことが大切です。

### = 筑摩野中学校の田川清掃 =

地域に貢献できる中学生をめざして、校庭に隣接する田川河川敷及び堤防道路の清掃が伝統的に生徒会の定例行事になっています。

### = 芳川小学校スクールファーム =

地区スクールファーム支援会のサポートを受けて3年生はジューストマト、4年生はホウキキビ、5年生はイネを栽培、収穫しています。4年生は収穫したホウキキビを使って、かつて野溝地区の伝統産業であった箒づくりも体験しています。



## (2) 子どものネット環境を改善する

小学生から高校生までの子どもに、ゲーム機やスマホなどのネット環境が広がるなか、前出のアンケートからは、保護者である大人たちにフィルタリングへの意識の低さなどが伺われるなど、子どものインターネット環境へのかかわりについて、まずは大人たちが学び、具体的な方策を探っていくことが重要だと感じています。

そこで、松本市PTA連合会が主催した「子どもの生活とメディアについて考える大人の授業」から、メディア環境の危険性も含めた「付き合い方」を学んだほか、ネット環境を通じた子どもとの向き合い方について学びあった様子を紹介します。

### ＝ 「子どもの生活とメディアについて考える大人の授業」 ＝ 松本市PTA連合会の取組みから

パソコンや多機能携帯電話（スマートフォン）などの通信メディアと子どもとの関わり方を考える初めての催し「子どもの生活とメディアについて考える大人の授業」が平成27年1月17日、松本市県の森文化会館で開かれました。手軽に扱える通信メディアは現代の生活に欠かせない一方、子どもの利用は基本的な生活習慣の乱れを招いたり、犯罪に巻き込まれたりする危険性も指摘されています。こうした現状を受け、「まず大人たちが学ぼう」と企画し、保護者や教育関係者ら延べ600人近くが参加し、正しいかかわり方を考えました。

松本市PTA連合会が企画し、「脳トレ」で知られる東北大学加齢医学研究所所長 川島隆太教授による「早寝・早起き・朝ごはんの大切さ」、県警サイバー犯罪対策室 植田英雄室長による「サイバー犯罪について（県内の実情）」、携帯通信3社による「スマホ・ケータイ安全教室（保護者・教職員編）」「ケータイ教室 安心安全講座」「考えよう、ケータイ 実践授業」の5講演を実施しました。

ケータイ・スマホは使用を制限しても根本的な解決にはなりません。技術革新が続く現状をまず受け入れ、親自身が学び、子どもと話し合うこと。上から命令するのではなく、スマホとの付き合い方を子どもたち自身に考えてもらうことが大切です。ネットの世界から子どもを守る最大のフィルターは親であるべきで、親自身がもっと勉強していくことが必要であると痛切に感じる機会となりました。



### (3) 誰もが参加し、楽しめるスポーツを行う機会を増やす

スポーツは競い合うことの楽しさのもとより、体を動かすことの楽しさから健康づくりを主体的に取り組むことができ、誰にでもその機会が開かれていることは地域などの社会で明るく暮らしていくことにもつながります。

また、中学期における部活動の指針や過熱する競技スポーツ状況も合わせて、社会体育を改めて捉えなおす機会となっています。

そこで、地域で取り組むことができる「いつでも、どこでも、だれでも」気軽に取り組むことができる社会体育の事例として「はたっこ」を紹介します。

#### = 総合型スポーツクラブ「はたっこ」 =

社会体育のあり方の一つとして、今年設立したスポーツクラブ「はたっこ」を紹介します。地域住民が「いつでも、どこでも、だれとでも」気軽にスポーツや文化を楽しみ、健康で明るく、活力に満ちた地域社会の形成に寄与することを目的として、総合型地域スポーツクラブ「はたっこ」を設立しました。

小さな子どもからお年寄りまで、多世代の皆さんが「ここに行けば、必ず楽しむことができる」という場を作り、多様な分野で活躍する方と連携して、複合的に多種目にわたるスポーツや教室を楽しめるプログラムを推進します。これにより、子どもには発育発達に必要な多様な経験、成人には新しい楽しみと出会い、お年寄りには健康増進に寄与し、スポーツを中心とした地域活性化へと継ぎます。また、スポーツ指導クラブ運営などに関わる人材の育成にも取り組んでいます。



#### (4) 子どもたちが、自分や他者の存在価値を認められるようになるために

平成25年度松本市子どもアンケート（グラフ6、7）から、子どもの自己肯定感が高くなく、その傾向は年齢が上がるにつれて上昇していることがわかりました。このことは「大人にも当てはまり、子どもも大人も日常的に自己を肯定することに慣れていないのではないか」「いろいろな活動の中に褒め合う、認め合うといったことを取り入れることから、自己肯定感を高めていったらどうか」といった意見が社会教育委員会議で出されました。

そこで、大人と子どもが、お互いの良さを実践的に発見し、認め合っていくために、まずは一緒に体験したり、交流する場を作っていくことが大切です。また、小学生ばかりでなく中学生や高校生にも地域社会などへの参画を促し、子どもたちが大人から頼りにされていることを実感できる地域、お互いが自己肯定感を高めていく地域に変えていく努力が必要です。そのことが、私たち一人ひとりの心の健康寿命を延ばしていくと考えています。

以下では、ある小学校の取組みと社会教育委員のコラムを紹介します。

#### = A小学校の取組み =

A小学校では、児童の自己肯定感が高まることを願って学級行事や学年行事そして学校行事、または、ある取組みの区切りの後の自己の「見返し」の時間を大事にしています。見返しは主に各学級で行っています。そこでは、友達から『よさ』に注目したメッセージをもらうことで、それを加味しながら自己を見返しています。具体的には、児童の感想から取組みの効果を知ることができます。

（例 一学期の見返しの場面で）

（Fさんの文より）

私は、Nちゃんに「Fちゃんってみんなをまとめていてすごいね。」と言われて、自分はみんなをしっかりとめられているんだなと思いました。それに、「キラキラカード」（よさを伝えあうカード）を見た時、班長の人にも他の人にも認めてもらっていたので、これからももっと認められるように目標を立てていきたいと思います。

（S君の文より）

D君は毎日「帰りの会」でぼくのよさを発表してくれます。「授業のとき、手を上げていてよかった。」と。ぼくも発言したらとても楽しかったり、うれしかったりしたので手を上げる回数が4年生の時よりも多くなりました。発言すると「いいね！」などと声をかけてくれる友達がいるのでこれからも発言をがんばろうと思います。また、わからないとき、H君やD君、Mさんがヒントのようなものを出してくれるのでとても感謝しています。これからも発言などをがんばってやりたいです。

#### = コラム：私の人生を変えた褒めの言葉 =

大変に私的な体験ではありますが、私は7か月の未熟児で生まれたため、身体が弱く、特に運動能力はゼロでありましたので、小学校の体育の時、私と組むとどんな競争も負けてしまうので、クラスメイトからはあからさまに避けられ嫌がられました。またそうした時、気だけは強かった私はカッとなって喧嘩になり、クラスで好きな人、嫌いな人のアンケートを取った時、クラスで一番の嫌われ者だと言われました。しかし、当時の担任の先生は、私が掃

除をきちんとすることやきまりを守ること、発言をすることなどを褒めてくださり、ある日二人きりの教室で「お前は本当に良い子だ」と頭をなででもらいました。その言葉は本当に嬉しく、その言葉にふさわしくなりたいと、友達との争いも我慢するようになりました。また出来ないことは嫌だけれど、自分を前向きに良い方へ伸ばそうと考えるようになりました。ですから、今の私がさまざまな活動において、少しでも役に立つことが出来るのであれば、それはあの時の先生の「お前は良い子」との褒め言葉にあったのだとの感謝の思いの消えることはないと思います。また皆さま方も自分や身近な人が褒められることで大きく成長したり、認められずに僻んだり、悲しくなったりという経験は必ずお持ちのことと思います。私は今の日本人に欠けているのはこうした人との温かいふれあいと美しいもの、良い事にみずみずしく感動できる柔らかな心ではないかと思います。そこで、こうした心を育て、真に豊かな心の健康寿命を創るよう、学校教育や社会教育の場にお互いの良いところ、自分の良い感情を育むべく、一日にあった良い事、楽しい事を書いていく「良い事日記（幸せダイアリー）」の導入を望んでやみません。

## おわりに

昨今の身の回りを見ると、互いに顔を突き合わせて語り合う場が少なくなってきました。子どもも大人も忙しすぎるのか。電子機器やインターネットの普及が子どもや若者から言葉を奪っているのか。このままいくと5年、10年先の社会はどのようなになってしまうのかと不安を感じます。「人とのつながりを大切にし、コミュニケーションのできるまちづくり」を大切にしていきたいと思います。そのためには、年1回や2回のイベントだけでなく、日常的な活動にしていく必要があります。今回はこれまでのテーマを踏まえ、視察研修やアンケート、各種団体とのブレインストーミングなどを通して、松本市の子どもをとりまく現状を洗い出し、具体的な取組みと活動を探ってきました。これを参考にして地域・団体の実情に合わせ、「学都松本」をめざす市政運営に活かしていただければと願うものであります。

## 資料編

### I 提言に向けた会議等の経過（平成25年10月から平成27年9月）

#### (1) 平成25年度（平成25年10月から平成26年3月）

	会議	期日・会場	内容
1	第6回社会教育委員会 議	25.10.25 教育委員室	(正副議長の選出) 1 社会教育委員活動について(説明及び協議)
2	第7回社会教育委員会 議	25.11.26 会議室A (大手事務所6階)	1 各課重点目標(3課)について 2 レポート発表(小松委員) 3 社会教育委員会議の取組み
3	第8回社会教育委員会 議	25.12.18 東部給食センター	1 各課重点目標(5課) 2 施設見学、給食の試食 3 レポート発表(北野委員) 4 社会教育委員会議の取組み
4	第9回社会教育委員会 議	26.02.12 市立博物館	1 各課重点目標(2課)について 2 レポート発表 3 社会教育委員会議の取組み ※社会教育委員委嘱基準のパブコメ結果など
5	第10回社会教育委員会 議	26.03.12 美術館	1 美術館特別展の視察 2 レポート発表(浅川委員)

#### (2) 平成26年度（平成26年4月から平成27年3月）

	会議	期日・会場	内容
1	第1回社会教育委員会 議	26.04.25 教育委員室	<p>■協議</p> <p>平成26年度の活動の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に提言を出し、今年度は任期1年目のため、テーマをすぐ決めるのではなく、市内の様々な活動や行政の動きなどを知る1年としたい。</li> <li>・松本市が進める健康寿命延伸都市というのは範囲がとても広い。これまでは青少年を中心に考えてきたが、高齢者の支え合いなどについても考える必要がある。</li> <li>・子育て中の親は忙しい世代。地域にある斜めの人間関係(“おせっかいな”爺・婆のかかわり)についても考えたい。</li> </ul>

2	第2回社会教育委員会 議	26.05.15 教育委員室	<p>■協議</p> <p>平成26年度の活動予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の様々な活動や市の動きや施設などを知る</li> <li>・高齢者の支え合いについて考える</li> <li>・地域における斜めの人間関係について考える</li> </ul>
3	第3回社会教育委員会 議	26.06.19 大手公民館視聴覚室	<p>■講義及び意見交換</p> <p>講義</p> <p>社会教育と地域づくりの可能性</p> <p>講師</p> <p>福島昭子氏（前松本市議会議員）</p> <p>学んだことを地域に還元すること、女性町会長として町会住民の合意形成を図りながら町会づくりをしたことなど、自身の経験から社会教育や生涯学習の意義についてお話</p>
4	第4回社会教育委員会 議 (現地研修)	26.07.25 梓川公民館及び波田 公民館	<p>■視察研修</p> <p>1 梓川地区まちづくり協議会 説明</p> <p>青木忠孝氏（梓川公民館長）</p> <p>協議会の設立からまちづくり事業開始まで念入りな協議等を重ねていることが伺われました。</p> <p>課題として地区内の福祉活動が比較的低調であることが挙げられ、今後は買い物弱者問題等の代的な課題への対応策も検討していきたいとのこと。</p> <p>2 波田地区まちづくり協議会 説明</p> <p>関道嘉氏（協議会会長）</p> <p>地域づくりの考え方を住民の中で共有するため、5つの小委員会の設置・検討、まちづくり講座の開催など、丁寧に取り組まれていることが伺えました。</p> <p>3 研修を終えて</p> <p>現在松本市が進める地域づくりを、住民側の動きから捉える機会となりました。</p> <p>両地区とも、地域づくりにおけ</p>

			る公民館の役割がより大きくなりつつあるとのことで、今後松本市の社会教育を考えるうえで、大変参考になったと思われます。
5	第5回社会教育委員会 議	26.10.09 教育委員室	<p>■講義及び意見交換</p> <p>信州型コミュニティスクール 説明</p> <p>大日野剛氏（中信教育事務所）</p> <p>コミュニティスクールや信州型コミュニティスクールの基本的な話に加え、松本市の状況に合わせた松本版信州型コミュニティスクールなどについての説明。</p> <p>意見交換では、コミュニティスクールの運営委員会の「評価」などについて質問意見が出されました。</p> <p>また、全国学力・学習状況調査の結果によると、長野県の子どもは地域行事へ参加する割合が高いが、大人と遊んだり、大人から注意されたり、褒められる割合が低いなど、地域の中の子どもを知る貴重なデータを得ることができました。</p>
6	社会教育関係団体による 意見交換会	26.12.02 あがたの森文化会館 講堂	<p>1 活動発表</p> <p>2 グループディスカッション</p> <p>3 グループからの発表</p> <p>4 まとめ</p> <p>※コーディネータ:中島節子 社会教育委員（松本大学）</p> <p>※詳細は、「(資料)2 社会教育関係団体意見交換会実施概要」(後掲)</p>
7	正副議長及び有識者会 議	26.12.24 市民活動サポートセ ンター	意見交換会の振り返りと、今後の展開について検討
8	第6回社会教育委員会 議	27.01.22 市民活動サポートセ ンター	<p>■協議</p> <p>3グループに分かれて、調査・研究課題を協議しました。</p> <p>(1) 子どもと大人のコミュニケーション(の場)づくり</p> <p>(2) 子どもにとってのIT・ゲーム環境、社会体育のあり方</p> <p>(3) 大人から子どもまでが交流する</p>

			遊び場づくり（※後日、心の健康寿命を延ばす）
9	第7回社会教育委員会 議	27.02.26 市民活動サポートセ ンター	■調査・研究 3グループに分かれて、調査・研究
10	第8回社会教育委員会 議	27.03.19 大手公民館視聴覚室	■調査・研究 3グループに分かれて、調査研究

(3) 平成27年度（平成27年4月から9月）

	会議	期日・会場	内容
1	第1回社会教育委員会 議	27.04.21 教育委員室	■報告など 3グループから調査研究内容の 報告など
2	正副議長及び有識者会 議	27.04.28 教育委員室	提言に向けた計画、各グループから の報告の集約など
3	第2回社会教育委員会 議	27.05.19 大手公民館視聴覚室	■協議 提言テーマ及び内容
4	提言レポートの作成	各委員	提言に向けたレポートの作成
5	第3回社会教育委員会 議	27.06.16 大手公民館視聴覚室	■協議：提言レポートを基に協議 (1) 現状と課題、課題解決に向けた 方策等の協議 (2) テーマの決定
6	提言素案の作成		
7	第4回社会教育委員会 議	27.07.09 あがたの森文化会館 2-8教室	■協議：提言素案を基に協議 (1) 提言素案の修正 (2) 提言内容の具体的実践例につ いて
8	提言内容の具体的実践 例の執筆		
9	第5回社会教育委員会 議	27.08.10 教育委員室	■協議 提言案の作成に向けた協議
10	第6回社会教育委員会 議	27.09.24 あがたの森文化会館 2-8教室	■協議など 提言案の協議と提言書の仕上げ
11	教育委員会へ提出	27.09.30 教育長室	

## Ⅱ 社会教育関係団体意見交換会 実施概要

### 1 趣旨

社会教育に関わる関係団体の委員が、地域づくり・まちづくりをテーマにして、各自の思いや情報を交換し、課題等を共有するため開催しました。

意見交換会では、参加者が5グループに分かれ、「地域で子どもを育てる」をキーワードにしてそれぞれの思いなどを意見交換しました。

なお、社会教育委員会議では、この意見交換会の意見等を基に、これからの地域づくりにおける社会教育の役割や方向性を考える予定です。

### 2 実施内容

(1) 日時 平成26年12月2日(火) 午後1時30分から4時30分まで

(2) 会場 あがたの森文化会館 講堂ホール

(3) 内容 活動発表(4名から)、意見交換会(5グループ)、まとめ

(4) 参加団体：26名参加

社会教育委員、公民館運営審議会委員、図書館協議会委員、博物館協議会委員、子ども会育成会連合会役員、地域づくり市民委員

### 3 意見交換会で出された主な意見

	項目	主な意見
1	あいさつ	・あいさつ する子、しない子 ・地域であいさつ運動をしている
2	コミュニケーション	・子どもとの会話は楽しい ・大人と話ができる子、できない子
3	かかわり、交流	・地域行事で他校、異年齢の子とのかかわりが多くなった ・大人の行事に参加する子 ・地域でのPTA活動の見直し
4	食	・偏食、学校・家での食事、外食 ・地域で郷土色を教える ・食とコミュニケーションの充実
5	IT、ゲーム	・ゲームや携帯への対応力と集中力が高い ・ニュースは見ないが、アニメに詳しい ・言語力、知識力、表現力に乏しい
6	あそび、居場所	・忙しいので、外で遊ぶ時間がない ・地域行事で地域の人とのかかわり ・子どもは地域の潤滑油：地域住民をつなげる
7	こどもの特徴	・応用力がない、指示されるとやる、褒めると喜ぶ
8	家族	・じいちゃん・ばあちゃんが過保護 ・手伝いは一人でやらない

## グループごとの調査・研究内容(平成27年1月～3月)

以下は、1月～3月までに3グループに分かれて研究協議してきた内容をまとめたものです。

グループ	テーマ	現状認識のために	課題	こうあってほしい	実現するために	を行う
1	子どもと大人のコミュニケーションの場づくり	<p>[現状認識のために・・・]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域の連携事業の資料</li> <li>・子ども会育成会へのアンケート</li> </ul> <p>[現状認識:どのようなことが分かったか]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と地域の連携事業は、各地区でかなりの活動がされていることがわかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・忙しい、居場所がない</li> <li>・子ども同士のつながりが希薄</li> <li>・「鍵っ子」が多く、仲間づくりができない</li> <li>・屋内遊び&gt;外遊び</li> <li>・地域の中で通学区が異なる</li> <li>・家庭内での手伝いの経験が少ない</li> <li>・大人が主導企画した行事が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のよそのおじさんおばさんと隔たりなく心を通わせられるような子どもに育てほしい</li> <li>・地域の子どものとして、将来またこの地で暮らせるような大人に育てほしい</li> <li>・松本を故郷として大事に思えるような大人になってほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体的に企画、立案して経験できる場面が必要(大人はサポートに徹する)</li> <li>・通学する学校が違って地域の子どものとして一緒に育てる地域風土の涵養</li> <li>・地域のよそのおじさんおばさんと接触する機会を演出したい(核家族化対応)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校別の地区児童会ではなく「地区子ども会」や「町会子ども会」として地域と一緒に育てる</li> <li>・PTA任せにしない</li> <li>・身近なところで町会が先立って活動する</li> </ul>
			<p>1 地域での子どもの事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松本地区では、すでに学校・地域での取組みが数多く行われている</li> <li>・地域の大人、先生、親が子どもをあてにして、自分が役に立つチャンスを作り、子どもを褒めてほしい</li> </ul>		<p>1 子どもの役割を大切に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統行事、スポーツ、子ども農園などで、子どもは一生懸命に取り組む。子どもの役割(達成感)は大切</li> <li>・指導者と後継者の育成が必要である</li> <li>子どもに対する接し方を身に着けることで、子どもたちに自主性を持たせる。またそのための大人の育成も行う。</li> </ul>	
2	子どものIT・ゲームの環境	<p>[現状認識のために・・・]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものインターネットアンケートなどの資料</li> </ul> <p>[現状認識:どのようなことが分かったか]</p> <p>右の「課題欄」</p>	<p>(1) 小中学生は携帯電話よりゲーム機でインターネットへ接続する割合が多い</p> <p>(2) フィルタリングに対する親の意識</p> <p>特に、小学生の保護者が中高生の保護者より意識が低いのは、ゲーム機としての油断ではないか</p> <p>(3) 利用時間:2時間以上の割合は、中学生で20%前後、高校生は50%以上</p> <p>(4) 中高生とも自宅以外では、意外にもファーストフードやコンビニで多い</p> <p>(5) インターネットの使用時間と学力の関係</p>			
			<p>1 子どもとインターネット 大きな問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛知の刈谷の事例</li> <li>ルール作り:9時以降はやらない、日曜日は休む</li> <li>空いた時間:親子で「話し合い」「運動する」「本を読む」</li> <li>・現状</li> <li>親は、子どもがインターネットをさほど使用しているとは、思っていない。(実態とのギャップ) 親の理解が必要</li> <li>・学都松本、市をあげてやるのかどうか(ネット利用の制限)</li> <li>市のスローガン「良いところを引き出そう」がんばったことをほめる:自己肯定感</li> <li>・若い保護者に無頓着な人がいる</li> </ul>			

## グループごとの調査・研究内容(平成27年1月～3月)

以下は、1月～3月までに3グループに分かれて研究協議してきた内容をまとめたものです。

グループ	テーマ	現状認識のために	課題	こうあってほしい	実現するために	を行う
2	小中学生の社会体育のあり方	[現状認識のために・・・] ・全国体力等の調査結果及び中学生期のスポーツ活動指針の資料  [現状認識:どのようなことが分かったか] ・右の「課題欄」	(1) 小中学生、特に中学生女子の体力のなさ(全国40位前後)  ほか ・「社会体育」と呼ばれる活動が、過熱気味 ・そもそも、社会体育にはどのような役割があるのか	・競技の楽しさ  ・短時間で効果的な指導 ・学校行事や地域行事との連携(学校行事や地域行事を休ませないように)		
			2 スポーツ少年団:子どもの忙しさ 親も忙しい ・団体スポーツ:規律があり、欠席できない・遅刻できない:親の送迎等のサポート ・勝負が優先する:チームスポーツのむずかしさ ・地域行事との調整のむずかしさもある			
3	心の健康寿命を育てる	[現状認識のために・・・] ・松本市子どもにやさしいまちづくり推進計画、非行少年総数の推移(長野県警資料)、ほか東京都における子ども調査資料など  [現状認識:どのようなことが分かったか] ・右の「課題欄」	(1) 子どもたちの自己肯定感 ・日本の子どもの自己肯定感は、他国より低い傾向がある。 ・松本市でのアンケート調査から、子どもの自己肯定感は50%:決して高くない。また、年齢が上がるにつれ、低い傾向にある。 ・日本:みんな仲良く=集団意識、他者との協調性が重視されている表れ ・自尊感情を育てる取組みを試行錯誤していく。 (2) 少年犯罪の現状 ・長野県の非行少年総数は減少傾向にあり、H26は統計開始のS24から最少となった。 ・再非行者数は、3割を占める。 ・特別法犯は、10年前の2.5倍。中でも児童買春、インターネットに関わるものが増加傾向。 ・刑法犯少年の年代別では、高校生が半数を占める。 (3) 心温まる行動、褒める、褒められる経験が少ない ・反省する場面が多く、褒められることがクローズアップされにくい。	自己肯定感を高める:自尊感情尺度などで検証評価する。 (1) 日常を見つめる ・日記の中で今日良かったこと、いいこと、感動したことを書く(文字にすることが大事) 褒めてあげる、共感する、 や花丸をつける ・書き取りの宿題:字が汚くても褒める (2) 他人に褒められる経験を積む。地域の認識を育てる ・親、地域、先生、仲間、友達など様々な人が褒める ・大人同士も褒める。親や教員の自己肯定感を高める ・褒められることに慣れていないため、上手に褒める方法を講座などで体験する? (3) 見本をつくる ・例えば、登下校の見守りでじゃんけん(日常的な子どもとのさりげない交流)などを通じて、子どもたちと会話し、褒める。 (4) 小、中、高校で「褒める」を継続していく方向で考える ほか、日常生活の中で、道徳やいのちの大切さを気づく(心の健康寿命を延ばす)		
			3 子ども自己肯定感 ・大人自身が、褒めることに慣れていない人が多い ・子どもの頃、欠点を改善する教育を受けてきた大人には、良いところをあげる、褒めることに慣れていない ・指導者の中にも、子どもの頃に根性論やスパルタで教育を受けている人が多く、自らもそのように指導しがち	3 心の健康寿命を育てる ・大人も褒めてほしい(自動車の運転など)		

## 参考資料

- 1 平成25年度全国学力・学習状況調査
- 2 平成25年度松本市子ども対象のアンケート
- 3 インターネットについてのアンケート（平成26年度 長野県）
- 4 平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査
- 5 松本市子どもにやさしいまちづくり推進計画

# 松本市社会教育委員名簿

(任期 平成25年10月1日～平成27年9月30日)

区分		氏名	性別	選出団体等 及び役職	備考
学校教育 関係者		ミヨシ トシノ 三好 要範	男	松本市校長会 (市立寿小学校)	
	前任	テラカヒ ヒロシ 寺沢 宏芳	男	中信地区高等学校校長会 (松本美須ヶ丘高等学校)	H25.4.1~H25.9.30 H2510.1~H273.31
	後任	カハラ ツネキ 永原 経明	男	中信地区高等学校校長会 (松本県ヶ丘高等学校)	H27.4.1~H27.9.30
社会教育 関係者		アサカ ヤスハル 浅川 安治	男	新村公民館 運営委員	
		アサキ アキ 浅輪 明子	女	松本市青少年補導委員協議会 研 修委員	
		イノウエ ハルオ 井上 治夫	男	神林公民館 館報編集委員	
		ウチガシマ マサユキ 内ヶ嶋 雅功	男	松本青年会議所 専務理事	
		カムライ アツシ 上村井 淳	男	前芳川公民館長	
	副	キノ ヤスカ 北野 康隆	男	波田公民館 運営委員	
	副	コマツ キミコ 小松 規美子	女	梓川公民館 運営委員	
		カジマ ヨシエ 中島 よし枝	女	(一財) 松本体育協会	
		ニシガチ エリコ 西口 恵利子	女	庄内地区公民館 図書・視聴覚委 員	
会計	ミヨザキ フミエ 三代澤 二三恵	女	松本市女性団体連絡協議会		
家庭教育 関係者	議長	カニノ 村ム 河西 収	男	松本市子ども会育成連合会	
		マシバ ケニオ 的場 久仁男	男	松本市PTA連合会	
有識者		カジマ セツコ 中島 節子	女	松本大学	